

静岡文化芸術大(浜松市中区)での地震発生時の避難対応や復旧業務などを冊子にまとめた。2016年4月の熊本地震で被災した現地の大学にヒアリングを行うなど現場の教訓も反映させた。静岡文化芸術大職員。34歳。

—作成のきっかけは。
「消防法に基づく火災などの被害防止を目的とした消防規定や消防計画はあったが、読みにくく実態に即していなかった。熊本地震で被災し、避難者を受け入れた大学も視察したことで必要性を痛感した」

—活用状況は。

静岡文化芸術大の災害対応マニュアルを作成した

ささき てつや
佐々木 哲也さん (東区有玉台)



この人

「マニュアルに記載されている一覧表を基に、職員が学内の消火設備を点検するツアーを開催した。学生と教職員による避難訓練も早速実施した。アンケートを配布して回答ももらい、改善すべき点も出てきた」

—今後は。

「災害時に協力し合えるよう他地域の公立大学との連携を進めたい。災害時の具体的対応を定めた事業継続計画(BCP)の策定も急ぎたい。個人的には防災士の資格を取得しようと考えている」

—大学の防災の課題は。
「他大学の取り組み実態が分からず、どこまで対策を進めてよいか手探りの状況にある。防災担当の職員が異動した際、引き継ぎ体制も確立しなければならぬ」

◇ 趣味は手筒花火と野菜作り。